

UCI側の「虚偽の主張」と「原理とみ言」の比較対照一覧表（抜粋）

| テーマ<br>「目次」の<br>参照項目  | 郭錠煥氏の『事必帰正』  | 金鍾奭著『統一教会の分裂』<br>およびUCI側の主張   | 「原理」とお父様のみ言  |
|---|--|---|--|
| 米<br>国<br>教<br>会<br>理<br>事<br>会<br>乗<br>っ<br>取<br>り<br>未<br>遂<br>事<br>件<br>の<br>経<br>緯<br>の<br>真<br>相<br>に<br>つ<br>い<br>て<br>第<br>二<br>章<br>第<br>二<br>節 | <p>「顯進様は、お父様が1月に指示された通り、（2009年）<b>2月27日から</b>世界巡回に出発しました」（p217）</p> <p>「理事会騒動の<b>直後、顯進様は韓国に立ち寄って</b>お父様にお会いしましたが、称賛ではなく叱責を受けました。お父様は、顯進様が米国資産を統制しようと直接理事会を変えたものと誤解していたのです。……『なぜ理事会を全て変えたのか！』激しく叱責された顯進様が『自分は何もしていない』と申し上げましたが、お父様は聞こうとはされませんでした。『あなたが米国責任者なのに何もしていないとは何だ！全員元通りに入れ替えろ!』」（p205～p206）</p> <p>「顯進様は……釜山のボンネッコール聖地を7年ぶりに訪れた際に、『統一家の葛藤は神様のみ旨と摂理を守る“天宙史的な闘い”だ』と語られました。『神様の摂理の方向性をめぐって起きた衝突』であり、……『神様のみ旨を果たすために生きてこられた、お父様の生涯と業績を守るための闘いだ』と見なしました」（p135）</p> | <p>「顯進様は翌日の（2009年）<b>2月27日</b>、GPFの世界ツアーのために日本に出国されました」（金炳和氏の証言）</p> <p>「<b>理事会騒動が起きた直後</b>、文顯進は韓国に立ち寄り創始者に会って苦境に立たされた。創始者は文顯進が米国の資産を統制しようと自ら直接理事会を替えたと考え、『何故、理事会を全て替えたのか』と大目玉を食らったという。何もしなかったと申し上げると、『お前が米国の責任者なのに、何もしなかったとは何ごとか。もう一度、全て替えろ』と指示した。K氏の証言」（p123の脚注）</p> <p>「一連の出来事は即ち、『長子』を潰し、世界摂理を破壊し、統一運動の方向性を見失わせようとする『サタンの業』……顯進様はこれを『<b>天宙史的葛藤</b>』として見つめられた」（櫻井正上氏の主張）</p> | <p>「（2009年）<b>2月28日午後</b>、韓国から日本に出国」（顯進様の日程）</p> <p>「（2月27日、韓国で開会された国際電話による米国教会の理事会の会合でオブザーバーとして参加した亨進様は、）真のお父様の命令が『<b>現理事会を開かずに東草にまず集結するように命じられた</b>』というお父様の意を伝えながら、『理事会の強行自体が父母様の意に逆らっている』ということを警告しました」（梁昌植氏の東草報告書）</p> <p>「責任を負った人たちがそこ（理事会変更）に加担して、扇動し手を挙げたならば、<b>その手を挙げたこと自体が問題</b>であって、誰が挙げさせるようにしたと言う必要はないのです」（マルスム選集609-126）</p>   |
| い<br>わ<br>ゆ<br>る<br>「 <b>東草事件</b> 」の<br>真<br>相<br>に<br>つ<br>い<br>て<br>第<br>二<br>章<br>第<br>一<br>節  | <p>「<b>お母様は、……お父様を孤立させ</b>、顯進様を長子の座から追い払い、その座に内的・外的準備がまだ整っていない亨進様を立てました」（p137）</p> <p>「……『訓母様！いったい何のためにそうされたのですか。これは何をしようということですか』『会長、私は何も知りません。私は関与していません』心が凍てつくような瞬間でした」（p221～p222）</p> <p>「2009年3月8日、いわゆる東草霊界メッセージ捏造事件まで起こして、顯進様を追い出す事件が起きました」（p379）</p>  | <p>「<b>韓鶴子と文亨進、文國進が共謀して文顯進を追放</b>」（p239）</p> <p>「……金孝南（注、訓母様）は内幕を尋ねる文顯進に対し、自分は文孝進の<b>霊界書信とは無関係</b>であり、『<b>訓母様報告書</b>』も作成していないと答えた」（p151）</p> <p>「東草霊界メッセージ事件の場合、<b>創始者を完璧に欺く為</b>に……文顯進除去の巧妙な道具として利用したというのが正に、東草霊界メッセージ捏造事件であった」（p152）</p>  | <p>「UCI指揮下にいるすべての食口たちに次の事項を指示する！まず、全食口は、永遠・永生の世界にたった御一人である<b>真の父母様の指示と命令に絶対に服従しなければならぬ</b>ことを忘れてはならない！これが統一家の永遠の伝統であり、信仰である！この点については、天宙的に真の子女も、一般食口も同様である」（真の父母様宣布文）</p> <p>「3月7日の訓誡会で、<b>訓母様が『私が昨日、孝進様から手紙の一つ簡単に受け取りました』</b>が、読んで差し上げましょうか？」と真のお父様に尋ね、お父様が『<b>そうだ！そういうものを皆、（地上と）連結しなければならぬ</b>』（マルスム選集609-81）と語られた」</p> <p>「（東草で）3月8日朝……封筒を開いて訓誡を始めました。初めのページには孝進様のメッセージがあり……同じ封筒の中に真の子女様たちの使命に対する<b>お父様の指示事項</b>（のメモを私がまとめた「報告書」）、この整理された内容がありました。……当時、協会長として公的な命令を受けて本人（注、梁会長）が作成して父母様に差し上げた『報告書』の内容です。したがって、この内容は霊界とは全く関連がないことを（ここに）あきらかにするものです」（2009年3月8日、東草報告書p16）</p> |